

第二南遣機密第一〇六号

大正三年十一月八日於日ノノ島艦艦警手

第二南遣枝隊司令官 松村龍格

海軍軍令部長島村速雄殿

第一班

秘

戰時日誌一件

一 第二南遣枝隊戰時日誌(通針三月十日)

右提出ス

(別冊添付)

(終)

一通

海軍

横濱分社印刷

4. 二月十二日
本司令部接受

-0031

第二南遣枝隊戦時日誌

0032

第二南遣枝隊戰時日誌

自大正五年十月一日
至十月一日

十月一日 水曜 正午位置 佐世保

天候晴 氣溫最高七九 晴雨計 最高二九、六

風向北 風力五

一、正午枝隊(矢矧缺)ハ幸壽丸ヲ伴ヒ豫定ニ基キ佐世保出港港外ニ於テ解列薩摩ハ單獨速力ヲ増シ先行シ平久幸壽丸ヲ伴ヒ共ニバラウ島ニ向フ

二、先是佐世保在泊中大海令第三八號及戰列部隊編制決定(本支隊)ヲ受領シ左ノ各項ヲ知ル

一、各戰列部隊行動

二、第二南遣枝隊ノ獨立

三、矢矧ハ佐世保ニ在リテ出動準備中

四、便宜ノ時機ヨリ夏季日課ノ施行ヲ命ス

海

軍

0033

五午後左ノ情報ヲ得タリ(無線電信)

第一南遣枝隊九月二十九日ヤルソト島着英國商船一隻ヲ

救放ス

大別紙第二南遣枝隊法令第三第四第五號發布

0034

第三南遣枝隊法令第三號

左記運送松當隊附屬中信號符字左ノ通り定メ
當隊限り之ヲ使用セシム

幸 壽 丸 K J

鎌 倉 丸 K A

天 拜 山 丸 T H

大正三年十月一日

第三南遣枝隊司令官 松村龍雄

0035

第三南遣枝隊法令第四號
 本行動中ニ限り當隊各艦並ニ當隊附屬運送船間ニ使用
 スキ味方識別暗號左ノ通り定ム

言	語	ヒーロー	タイコー (太閤)
發光、発音	音	ニ・ニ・ニ	一・ニ・ニ
燈	火	燈火ヲ左右ニ數回振ル	燈火ヲ上下ニ數回振ル
旗	旒	長旒 三個 連掲	同上

備考、一艦船相近ツキ識別困難ナルトキハ本暗號ニヨリ其味方
 ナルコトヲ確ムヘシ、問號ヲ以テ問ハハ答號ヲ以テ答ヘ
 答號ヲ以テ問ハハ問號ヲ以テ答フルモトス
 二、旒流ハ遠距離ニ於テ使用スルモノトス

大正三年十月一日

第三南遣枝隊司令官 松村龍雄

0036

第二南遣枝隊法令第五號

一、特令アルモノ、外第一艦隊ノ定メタル諸法規ヲ
當隊ニ襲用ス

大正三年十月一日

第二南遣枝隊司令官 松村龍雄

0008-2

十月二日 金曜

正午ノ位置 北緯二十八度五十四分
東經百三十八度八分

天候 晴 氣温 最高八二 最低七四 晴雨計 最高五〇・二三 最低三〇・一六

風向 北東 風力 四

一 矢矧ハ午前九時パラウ島ニ向ケ佐世係出港

二 左記無線電信ヲ送ル

參謀ヨリ平戸矢矧宛

薩摩ニ於テハ北緯三十五度以南航海中ニ限り機関兵ニ約百

倍ノ重湯ヲ飲用セシム為念

三 敵情ニ関スル無線電信左ノ如シ(軍令部次長發電)

一 南米リマ領事ヨリ電報ニヨレハコライナチヒハベリヌー北端

Totos de Afuerasニ載炭三十八日午後六時南方ニ向

ハ

二 三十日荒我發電

0037

一「ニビチス」ノ「ビーツ」ウエーマスハ「ケー」ニヒベルヒ撃滅ニ任ス

ニ「アルゼリン」Anandhaハ東印度艦隊ニ臨時編入

三「スキフト」ニア「其他」輸送上陸地點

四「フオックス」十月三日モ「ハサ」着「ボンバー」ニ歸ル苦

(三) カンペルトウル 樺山來電

三煙突軍艦二十五日「ヴル」デイ「ヴィア」二十九日「バル」バライソ「沖」通過

獨國軍艦「ドレー」ステ「ナラ」ント「ホフ」

(四) 十月一日荒城發電

夕「ヒチ」總督公電 「シヤル」ン「ホル」スト「カナイ」セ「ナウ」九月二十一日石

炭運搬船ニ隻ヲ伴ヒソ「サイ」チ「島」首府「沖」ニ現ハレ佛國

砲艦「ゼー」レ「ラ」撃沈シ市街ノ大半ヲ砲撃破壊シ夕刻北

東ニ向ヒ去ル

(五) 二日荒城發電

一、獨國官吏ノ言ニ依リ九月十五日獨國軍艦假裝巡洋艦

多数ノ運送船マーシャル群島ノウオトエニ在リタリ

ニ九月四日「ガイエルカロリン」群島ノクサイエ島ニ在リタリ

十月三日 土曜 正午ノ位置 北緯三十四度三十一分
東至百三十一度八分

天候晴 氣温最高七八 晴雨計 最高五〇・二五
最低三〇・一五

風向北東 風力四

一、薩摩ハ午前十一時五十分一汽船ヲ沖大東島ノ傍ニ認メ稍之ニ
近接シテ日本商船不動ナルヲ確メ又正午同島ヲ南五十九
度半東九哩半ニ見圖上ノ位置ヨリ南八十七度西十哩ニ在ル

ヲ知レリ

ニ大海令第三十號(山屋第一南遣枝隊司令官ニ訓令)ヲ傍受ス(電報)

三、矢利平戸宛左ノ電ヲ送ル

0039

(一) 正午位置示セ、ラサ島ニ於テ不動丸燐鏡ヲ積ミツ、アリ

(二) 天測ノ結果沖大東島ハ海圖上ノ位置ヨリ南八十七度西十哩ノ所ニ在リ同島附近通過ノ際爲ニ得レハ尚其位置ヲ確メ

後ヨリ報告セヨ

次テ左ノ報告ヲ得タリ

平戸正午位置 北緯 二十七度七分東經 百三十度三十七分

矢矧正午位置 北緯 二十八度二十分東經 百三十度十五分

四大海令第三十四號(軍令部長ヨリ無線電信)受領

其ノ要領左ノ如シ(訓令)

パラウ島到着後敵主力ノ行動不明ナル場合ニハ麾下ノ巡洋

艦ヲ以テモルッカ海及バンダ海方面ヲ索敵シ且英國支那艦隊ト

通信連絡ノ保持ヲ圖ルヘシ

五軍令部長ヨリ左ノ電アリ

0040

一日山梨發電

敵主力、新情報ニ依リ英國濠洲艦隊ハラバウルニ向ケ出
港

ニオーストリア官憲ヨリノ電報

電信船「アイリス」無線電信ヲ裝載シ船名電信符海軍用
ニMNY商業用ニMNIT定ム

十月四日 日曜

正午、位置

北緯二十度二分
東經百三十一度四分

天候 晴 氣温 最高八七 最低八〇 晴雨計 最高三〇・一八 最低三〇・二〇

風向 東 風力 三

一午後九時五十五分大海機密第九十七號(無線電信)受領(略)

二軍令部次長ヨリ左ノ電アリ

在英武官來電 九月二十九日獨國巡洋艦一隻給炭船ヲ伴

0041

ヒサモア島 Takuila 沖に在リトノ情報ヨリ英國軍司令部ハ
同方面ヲ索敵スヘキ旨英國濠洲艦隊ニ訓令セリ

十月五日 月 曜

正午ノ位置

北緯 十度 三十分
東經 百三十三度 三十分

天候 晴

氣温

最高 八七

最低 八一

晴雨計

最高 三〇・一五

最低 三〇・〇六

風向 東 風力 三

一 大海機密第九十七號ノ訓令ニ基キ別紙第二南遣枝隊機密

第九號(無線電信ヲ發ス)

二 薩摩ハ右命令ニ基キ鐵路ヲ變シヤツル島ニ向ヒ平戸ハ幸壽

丸ヲ伴ヒアングウル島ノ西側ニ向フ

三 別紙第二南遣枝隊法令第六第七號同日令第三號ヲ發布

ス

四 午後佐世保鎮守府參謀長宛左記無線電信ヲ送ル

0042

鎌倉丸、第二航路ヲ取ルニ及ハス至急マツテ直航スル様同船
ニ傳ヘラレタシ

五午後八時四十分大海機密第九十九號(訓令)受領(本文略)

六右訓令ニ基テ午後十一時二十分先ッ平戸宛左ノ電ヲ發ス

日進救助ノ任務ハ其ノ艦ニ擔任セシムル等幸壽丸ヨリ洋中
載炭可能ナルヤ石炭現在高知ラセ

0043



第三南遣枝隊機密第九號

第三南遣枝隊命令無線電信
大正三年十月五日午前零時五分
於航海中旗艦薩摩

一、枝隊ハ訓令ニ基キ豫定ヲ變シ先ツヤツブ島ハ無線電
信所ヲ占領シ要スル同島ヲ占領セントス

二、前號ノ占領ハ薩摩ヲシテ之ヲ擔任セシム

三、矢矧ハ速カヲ増シ七日午後五時迄ニ「ヤツブ」島ニ来レ

四、平戸ハ幸壽丸ヲ伴ヒ「ア」ガウ此島西側ニ直航セヨ

第三南遣枝隊司令官 松村龍雄

第三南遣枝隊法令第六號

一、當今、間冬季日課ヲ施行スヘシ

但、三年後、課業始ヲ二時トス

大正三年十月五日

第三南遣枝隊司令官 松村龍雄

0046



第二南遣枝隊法令第七號

一、自今特令十ヶレハ當隊各艦船分隊行動中ノ原速力(實速力)ヲ尤ノ通り定ム

薩摩 十節

平戸矢矧 十一節半

鎌倉丸 十節半

幸壽丸

航行全速力

天拜山丸

大正三年十月五日

第二南遣枝隊司令官松村龍雄

第三南遣枝隊日令第三號

大正三年十月五日
松村第二南遣枝隊司令官

- 一、薩摩ハヤヅロ島着後直ケニ月島ノ台領ニ從事スヘシ
- 二、矢矧ハヤヅロ島着後濱野參謀ノ乘艦了ラハ直ケニバラウ
ノ急航月島及アガウル島ノ台領ニ從事スヘシ
- 三、平ノアガウル島到着後直ケニ幸壽丸ヨリ石炭ヲ滿載
シ水糧食等ヲ補給ヲナスヘシ
- 四、台領ニ參與セシムル陸戰隊ノ豫定兵數等及台領軍
指揮官心得別紙ノ通り定ム

一終

0048

占領軍 編制表

日数		各地ニ於ケル編制別		準備(米糧飼)
第百若 日二區	指揮官大尉 小隊(約百名) 中少尉軍医及之 計官數適宜 汽飛隊舟ノ數適 宜	指揮官大尉 小隊(約百名) 中少尉及軍医官 數適宜 汽飛隊舟ノ數適 宜	指揮官大尉 中隊(約百名) 中少尉軍医及 計官數適宜 汽飛隊舟ノ數適 宜	食分携帶
第百 約百日間	指揮官中尉一 他計官若干 入	指揮官大尉一 同上	指揮官大尉一 同上	上欄日數ニ對スル 準備
同 以後	情現ニテ固室 守備隊ノ數ヲ 定ム	同上	同上	

備考
 一、汽飛隊舟ノ軍裝ヲ「薩摩」汽飛一夏ハ輕便無線電信機ヲ
 裝備スル
 二、引カレ占領ニ際シテハ汽飛ニハ少クモ十哩ヲ往復シ得ルノ
 炭火ヲ搭載シ尚ホ隊ニ得ル火多クノ豫備炭火ヲ準備スルニ
 三、残高スル人員實ニ對シ準備スルニキ主要物件 備スルニ
 一、寝具收帳類 必要數
 二、後砲同陸上砲架及彈藥
 三、豫備彈藥 若干
 四、應急医療流 若干

0049

占領軍指揮官心得

- (一) 德國人ニ對シテハ特ニ監視ヲ嚴ニス(キ)勿論ナモ安寧秩序ヲ害セズ我軍軍事行動ニ妨ケル限リ可成恩惠的處置ヲ取リ當分現狀ノ如ク生活セシメトシ其敵人敵物ニ對スル處置ハ左ノ諸號ニ據ルベシ
- (二) 敵國軍人ハ一旦ニテ俘虜トシ若干日拘禁ノ上別狀ナシト認ルルモ之ヲ宣誓セシメテ後ニテ解放シ其保放置スル時枚ニ對シテハ宣誓前同部員數ヲ返シテ莫ク
- (三) 敵國ノ官公吏ハ別ニ安寧秩序ヲ害セザル限リハ軍ニ其官職ヲ奪フノ外放置スルニ但シ彼等ノ意志ヲ強イサル限リハ之ヲ利用スルハ妨ナシ
- (四) 敵國私人ニ對シテハ安寧秩序ヲ害セザル限リハ現狀ニ放置スルニ但シ下カケル任氏ニ對シテハ他日軍事上ノ必要ヲ認ムルヲ以テハ別カケルハヤツル何カニ退去ヲ命ズル時機アリキヲ豫メ命ジ置クニシ
- (五) 以上在留ノ德國人ニシテ島外ニ退去帰國ヲ希シムルモ便船ヲキクニ困難ヲ新フルモノハ特ニ數日後ニ鎌倉倉庫ニテ島外ニ退去帰國ヲ許可ス
- (六) 但シ捕獲中流ハ各自ニ携ヒ得ル量ヲ限トム
- (七) 又日本國長崎ニ退去ヲ望ムモノアリハ約ニ趣向而シ鎌倉倉庫ニ便船ヲ許可ス
- (八) 但シ船内ノ食費ハ自辨トシ長崎到着後ハ地方官憲ノ指揮ニヨリ進出スルヲ約スルモノトス
- (九) 州官方若クハ官屬ノ建物ハ之ヲ押收保管シ要ムルハ之ヲ我用途ニ使ヒテ防ナシ
- (十) 敵國ノ國有ニ属スル現金基金及有価証券貯蓄品等輸送材料
- (十一) 在庫品燃料糧秣其他總テ你我働作ニ使フモノヲ得(ト動産ハ之ヲ押收スルハ緊要ノ場合ニハ適宜處分スルニ)

0050

(1) 通債又ハ輸送ノ用ニ供セラルル一切ノ糧食野藏兵器其他一切ノ軍需品ハ私人ニ属スルモノト爲ス之ヲ押收シ又ハ緊急ノ場合ニハ之ヲ通債處引取ルルノ手續但シ押收スル處分ヲ爲シタル物件ニ就テハ將來差支ナシト認レルモノ可成其目録及洋価格ヲ明記シテ書面ヲ所有者ニ交付スル必要アリ以テ事情ノ許ス限リ司令部ニ該方面ノ案ヲ提出スルニ勿論緊急ヲ要スルキハ指揮官ノ名ヲ以テ一時交付シ差支ナシ

(2) 敵國ノ官吏若シ誌録等ニシテ軍事上必要ト認レルモノハ之ヲ押收スル

(3) 守備隊本部ニハ軍艦旗ヲ掲揚スル

(4) 其他州治甲午年十月十日合中回干和會議ニ於テ議定スル陸軍ノ規程規程例ニ固スル條約及基附屬其ノ規定ハ之ヲ遵守スルヲ要ス

二、獨國人以外ノ改米人ニ對シテハ役令獨國公務ニ使役セラレタリシ者ト爲ル可成寛大ニ處置ヲ取ル

三、土人ニ對シテハ恩威並行ニシテ之ヲ懐柔スルヲ要ス

以上其ノ大要ヲ示ス

四、突発ノ事件ニ對シテハ一ニ指揮官ニ授權スル處分ヲ委セシムルカラス要シ我軍軍事上ノ必要ニ際シテハ寸毫モ他慮スルコト要セサシト云其他ニ在リテハ施ラ恩威並行ニシテ其台領地カ永ク我皇土トナルト爲トシ論ナク任長ヲシテ皇軍ノ仁惠余澤ヲ永遠ニ紀念セシムルヲ要スル

0051

十月六日 火曜

正午ノ位置

北緯十二度九分
東至百三十九度二分

天候晴

氣温最高八七
最低八三

晴雨計

最高三〇・〇七
最低二九・九八

風向東 風力三

二午前零時四十分大海機密第九十九號ノ三(無線電信)受領

(本文略)

二午前一時三十分平戸ヨリ洋中載炭ハ長濤ノ爲ノ困難ナリ石炭現在高七百七十噸ノ返電ニ接シ先ツ軍令部次長ニ日進救助ノ爲ノ平戸ヲ急派スル旨打電シタル後午前七時三十二分左記平戸艦長ニ訓令(無線電信)ヲ發ス

一、日進坐礁ノ件ハ其ノ艦ニ於テ傷受セル通りナリ

二、其艦ハ今ヨリ重油百五十噸石炭約百五十噸ヲ残ス見込ノ

速カラテ日進坐礁地ニ急行救助ニ從事セヨ

三、日進若ハクオト通信ヲ試シ日進ノ現状ヲ時々報告セ

ヨ又決定次第サンダカン着、時日ヲ報告セヨ

四毎日正午ノ位置ヲ報告セヨ

五サンダカン附近ノ航路ニ充分警戒ヲ要ス

六幸壽丸ニハ單獨アングウル島西側ニ來ル様傳ヘヨ又其ノ

艦ノ補炭ノ爲ノダーベルバーニ同船ヲ送ル等同船同灣着

ノ豫定時日ハ追テ知ラス

三午前九時三五分電報ニヨレハ平戸ハ速力十三節直ニサンダカン

港ニ向ヒ十日午前今港到着ノ豫定

十月七日 水曜 正午ノ位置 ヤツノ島トミル港沖

天候 晴 氣温 最高八九 晴雨計 最高三〇・ニ七 最低二九・九七

風向 北東 風力ニ

一午前零時三十分大海機密第九十九號ノ五(無線電信)ヲ受領

0053

ス(本文略)依テ平戸ニ打電シテ其ノ任務ヲ取止メアンガウル島
西側ニ向ケ普通ノ速カヲ以テ來ルヘキヲ及速カヲ減シテ九日
午後三時迄ハアンガウルノ視界内ニ入ラサルヘキヲ命ス
次テ平戸ヨリ全艦ハ午前六時四十五分ヨリ速カヲ八節ニ減シ
アンガウル島ニ向フ旨電報アリ
薩摩ハ午前九時十分ヤツブ島トミル港沖約五湮ノ地點ニ達
シ漂泊ノ上梅津海軍少佐指揮下ニ銃隊一中隊及附屬部
隊ヨリ成ル一隊ヲ出シヤツブノ占領ニ任セシム陸戰隊ハ午前
十一時何等抵抗ヲ受クルコトナク上陸シ政廳信號竿頭我
カ軍艦旗ヲ掲揚シ午後零時四分無線電信所海底電
信會社其他附近一帶ノ占領ヲ了シ梅津少佐以下約一々小
隊ノ守備隊ヲ殘留シテ歸艦セリ午後四時守備隊ハ獨
國測量艦「アラネット」病院後方澳内ニ自沈シアルヲ發見ス

0054

三 矢矧 八午後五時トミル港沖ニ來着ス依テ同艦長ヲ召シ同艦
任務施行ニ就キ諸般ノ指示ヲ與ヘ枝隊參謀濱野少佐枝
隊附小澤大尉囑托水谷新六艦長顧問トシテ全艦ニ乘艦
後午後六時三十分出港十五節ノ速カヲ以テパラウ島ニ向フ
四 別紙第二南遣枝隊日令第三號ニ發布
五 本日左ノ無線電信ヲ受領ス

(イ) 佐世保鎮守府參謀長ヨリ

鎌倉丸本日午前十時補給用石炭四千六百噸及糧食淡
水ヲ搭載シマツプニ向ケ佐世保出港

(ロ) 軍令部次長ヨリ

肥前八日横須賀發布哇ヲ經テエスクワイモルトニ向テ豫定
第一南遣枝隊司令官ヨリ

去ル三日不閉五日クサイ島ヲ占領シ七日ホナヤヲ占領セント

0055

スル旨及第二南遣枝隊今後ノ行動豫定知サレ度
(二)サイパン及マルトニ特設無線電信所ヲ設置スル件四日内
令ニテ發令

0056

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0057

第二南遣枝隊日令第三號ニ

大正三年十月七日
於ヤツ川島艦薩摩松村第二南遣枝隊司令官

一第二南遣枝隊日令第三號別紙台領軍指揮官
心得一號(1)項中但之以下ヲ削除ス

(終)

0059 0058

第二南遣枝隊司令第一號ニ

大正 陸軍省 陸軍部 陸軍少佐 松村 第二南遣枝隊司令官

一第二南遣枝隊司令第一號別紙ニ領軍指揮官

心得一號(一)項中銀字以下ヲ削除ス

(終)

リ項ハ誤ニヤ
ナリ

0059

0058

十月八日 水曜 正午ノ位置 ヲツノ島 トミル 港沖

天候晴 氣温 最高ハ七 最低ハ九、九六

風向北東 風力ニ

一薩摩ハトミル港沖ニ漂泊占領後ノ整理ニ從事ス

二矢矧ハバラウ島ゴール泊地沖ニ達シ午後一時四十分瀬崎

海軍大尉ノ指揮スル約六十名ノ陸戦隊ヲ派シバラウ島占領

ニ向ハシム陸戦隊ハ何等抵抗ヲ受クルコトナク午後四時四十分全

ク該島ノ占領ヲ了シ作間海軍中尉以下三十余名ノ守備隊ヲ

残シテ歸艦ス

同地占領ニ関スル矢矧ヨリノ無線電信左ノ如シ

一午後三時二十分受

午後一時四十分ゴール泊地ノアラックロック南方一哩半ニ着シ

直ニ揚陸ヲ開始ス

0060

三午後五時五十六分受

陸戦隊上陸ノ際ハ驟雨ノ爲ノ本艦ヨリ見得ヌ抵抗ナキ
モノト思ハル陸上ノ概況ハ陸戦隊員一部歸艦セハ直クニ
報告ス

三午後九時十五分受

第一報告

午後四時五十分陸戦隊ハゴールニ上陸シ無事占領ス捕
獲品奮式小銃百挺餘同彈藥包數箱獨人男女併
テ十名許リ政廳及島司ハゴールニ在リ土人兵數十名
リシモ武器ヲ受取レリ尚整理スルニハ三五日ヲ要ス日本航
船ヲガム丸港内ニ抑留サレアルヲ數フ

三左ノ情報ヲ受信ス(無線電信)

六日荒城發電

0061

一四日スバ無線電信局ハ獨逸船ノ使用スル秘密電信暗號
書ニヨリ左記無線電信ヲ傍受ス

「シマルンホルスト」マ「ケサス島」ト「イスター島」西方百七十九トノ間ヲ
敵ニ發見セラル現在ノ位置「ホリー」ク「ロス」不明

ニ「エムデン」ハ二十八日ヨリ三十日 *Mudlisse* 附近ニ在リ十月一日
北ニ向ヒ去ル

四午後十一時。分左記無線電信軍令部長宛發電

第二南遣枝隊戰報 其一

枝隊ハ「バラウ」直航ノ豫定ナリシモ情報ニヨリ「ヤツ」島占領ノ急務
ナルヲ認メ俄ニ豫定ヲ變シ七日午前九時「ヤツ」沖合ニ達シ梅
津少佐ノ指揮スル薩摩陸戰隊ヲ同市街ニ上陸セシメシニ上陸
場附近ニ若干ノ土民兵アリ掩堡ノ如キモノヲ築キヤリシモ直ニ四
散シ無抵抗ニテ無線有線電信所其他各官廳等總テ該

地一帯ヲ占領シタリ是ヨリ先敵ハ豫メ準備セルモノ、如ク我カ
陸戦隊ノ顯ハル、ヤ港内島蔭ニ潜伏セル獨逸軍艦ヲアラネット
ヲ自沈シ又先キニ英國艦隊ニ砲撃セラレ全部破壊セル無
線電信所ノ外新ニアラネットヲ取外シ仮設ニタル小規
模無線電所ヲ全部爆破シ有線電信所モ其ノ建物電纜
ハ完全ナレトモ送受信機ノ大部ヲ破棄シ知事代理ハ警察部
長兼土民兵指揮官ト共ニ若干ノ土人手兵ヲ率キ山中ニ逃走
セリ我カ陸戦隊ハ先ツ大体ノ占領ヲ了リタル後約二里ヲ離レ
タル山中ニ拘禁同様ノ邦人七名ヲ救ヒ出シ之ヲ案内トシテ諸方
面ノ調査搜索ヲナシ遂ニ知事代理等ヲ連れ來リ土民兵モ皆
武器ヲ捨テ八日夕刻迄ニ略整理セリアラネットノ乗員九十
餘名ハ一旦守備ノ爲メ陸揚セル同艦ノ砲彈藥等ト共八月
末寄港セル前露國義勇艦隊汽船コレサニ拿捕後コレモ

0063

ト改名セル獨國汽船ニ搭シ約一週間前出港何レハカ退去セルヲ
以テ目下純獨國軍人ハ病院ニ入院中ノ准士官一名卒三名ノ外
所在不明ノ水兵二名アルノミ其他在留獨人二十名英人一名蘭人
三名アリ官用建築物ハ知事官廳、バラック、需品倉庫各一
棟軍需品ハ約百坪ノ倉庫ニ三分ノ二程度ニ充實セル掌院及
船匠科ニ屬スル多數ノ雜需品類約三千挺ノ小銃

0064

十月九日 金 曜

天候 晴 氣温 最高 八四 晴雨計 最高 二九、九六

風向 西南 風力 三

一 薩摩ハヤツル占領後ノ整理ニ從事ス

二 矢矧ハ午前八時アシガウル島北東岸附近ニ達シ同島占領

ノ目的ヲ以テ土田海軍大尉指揮下ニ約六十名ヨリ成ル陸戦

隊ヲ同島ニ上陸セシム陸戦隊ハ午前八時三十分燐鏡會社ニ

到達シ其ノ支配人ニ對シ本島占領ノ旨ヲ告ケ午前九時軍

艦旗ヲ掲揚シテ本島占領ヲ了シ隊長土田大尉以下三十餘

名ノ守備隊ヲ残シテ歸艦ス

本島無線電信所ハ調査ノ結果英艦「シドニー」為ソノ全ク被

壞シタルコトヲ知ル

三 午後十時軍令部長宛テ左記第二南遣枝隊戦報其ノニテ

0066

電報ス

七日夕刻矢矧ヲバラウ島占領ノ爲メ急派シ同艦ハ八日午後同
地着陸戦隊ヲゴロルニ揚陸無抵抗ニテ同地一帯ヲ占領セ
リ九月二十五六日頃獨逸運送船一隻政廳用船 COMMINI 出港
セシ以來獨逸船來ラズト云フ抑留サレアル日本帆船ガ凶死ヲ救
放ス押收軍需品奮式小銃百挺小銃彈藥數箱獨國人
島司ト共ニ男女併セテ十名ナリ

同島ノ南方燐嶺ノ産地タルアガウル島ハ既ニ英國ニ於テ占領ヲ布
告セル疑アリシモ矢矧ヲシテ九日現場ニ赴キ調査セシメ九月二十
六日英艦「シドニー」無線電信所破壊ノ爲メ來島燐嶺會社
長ニ其ノ旨ヲ通告セル外何等證據ナキヲ以テ遂ニ同艦ハ午前九時
同島ヲ占領セリ同島ニハ島司ナルモノナク單ニ該社長萬事ヲ
處理シ居ルニ無線電信所ハ全ク破壊サレアリ

0067

四平戸ハ午後五時半 アンガウル島着

先是平戸ミアンガウル島ニ達セハ明朝頃到着スヘキ幸壽丸ヲ待
受ケ便宜同船ヨリ炭水ヲ満載シ命ヲ待ナ且ツ幸壽丸ノ到着
ヲ報告スヘキヲ命セリ

五午後十時十五分佐世保鎮守府参謀長宛

天拜山丸ニ第二航路ヲ採ルニ及ハス第一航路ニテ差支ナント傳ヘラレ
タキ旨打電ス

0068

--	--	--	--	--	--	--	--	--

0069

十月十日 土曜

天候 晴 氣温 最高 最低 八七
晴雨計 最高 最低 二九、九八
二九、九四

風向 西南西 風力 三

一 薩摩ハ引續キ前作業ニ從事

二 幸壽丸午前十時アングウル着

三 午後二時平戸幸壽丸ヨリ載炭ヲ開始ス

四 水路部長ヨリ左ノ電アリ

ホルネヲ北東岸サンダカン港外ニテ水深三尋ノ石花礁ヲ發見

セリ位置バハラ島頂ヨリ北二度四十五分東九二度北緯六度

一分十五秒東經百十八度九分三十秒

五 午前二時三十分軍令部次長ヨリ左ノ情報ニ接ス

バタビア浮田領事ヨリ左ノ電報アリタリ

「エムデヒ」ハ十月六日マカツサル海峡ヲ北上セルモノ、如シ

0070

右情報ニヨリ平戸差遣ニ決シ午前十一時五十分左ノ訓令(無線電
信)ヲ發ス

平戸艦長ニ訓令

一、マカッサル海峡北上ノ疑アルコトエムデシハモルツカ海峡及バンダ海附
近ニ現ハルノ機多ク又同方面ニハ敵ノ巡洋艦ガイエル其ノ他
運送船ノ存在スルヤモ知レスト認ム

ニ、其艦ハ炭水補給終ラハ直ニ出發石炭ノ許ス限り或ルハク廣
クモルツカ海峡及バンダ海方面ヲ索敵シパラウニ歸還スヘシ
三、航路ノ保安ニ就テハ特ニ警戒ヲ要ス又蘭國領水ニ入ルコ
トヲ絶對ニ避ケアムボイナノ如キ日本人在留ノ地ニ近接セハ
領海外ニ在テ適宜邦人ニ逢ヒ敵情ヲ知レ如キ機宜ノ所置
ヲ採ルヘシ

四、薩摩ハ當分パラウマツブ間ニ在リ

0071

五、航路及出發並歸着、時日豫定報告セヨ

六、午後十時三十五分左記情報受信（軍令部次長發無線電信）

一、エムデンハ六日マカッサル海峡北上ノ疑アリトノ情報ニ對シ、カド

マス、クリオ驅逐艦三隻グーベル發

二、エムデン六日マカッサル海峡北上ハ虚報ナリレコトヲ確メタル旨在

バタビア浮田領事ヨリ電報アリタリ

七、午後十時軍令部長發左ノ電ヲ受領ス

(1) 大海機密第百十六號

左ノ件通牒ス

大海令第三十六號 第三艦隊司令官土屋光金ニ訓令

其官ハ麾下一艦ヲ交互ニルソン島東方海面ニ派遣シ、第二南

遣枝隊ト通信連絡ヲ保持シ且ツ引列方面ニ出入スル敵船

ノ監視拿捕ニ任スハシ

0072

大正三年十月十日 海軍軍令部長奉

(口) 大海令第三十五號

訓令

一 横須賀鎮守府司令長官佐世保鎮守府司令長官ハ軍令部長ノ指示スル所ニ依リ特別陸戰隊ヲ進發ヒシムヘシ

ニ 第一南遣枝隊司令官 第二南遣枝隊司令官ハ南方海面於テ軍事的台領ヲ行ヘル要地ニ必要ニ應シ特別陸戰隊ヲ配備スヘシ

大正三年十月十日 海軍軍令部長奉

ハ 第一南遣枝隊司令官ヨリ左記無線電信受信

枝隊ハ何等抵抗ナク去三日ヤマト今五日クサイ島占領明後七日

朝ボナビ島ニ至リ同島ヲ占領ヒトス爾後行動ハ未ク決定

セサルモ十一日頃トラック着直ニ同島ヲ占領シ給炭船待合ノ為

0073

十五日頃迄滞在スル筈當隊ハ當分ノ内トラツクヲ根據トシ策動ス
ル心算ナリ貴隊根據地モ同島ニサレテハ如何ト思考ス貴隊今
後ノ行動豫定知サレ度

右ニ對スル返電左ノ如シ(午後十時五十七分發電)

返 當隊ハ七日八日九日ヲ以テヤツプ、パラウ、アングウルヲ占領シ當分
パラウ方面ヲ根據トスルコト、承知アリタシ平戸ヲモルツカ海峡バン
タ列海方面ニ索敵ノ為十日夜分派セリ

九、別紙第二南遣枝隊法令第八號發布(書類及無線電信)

0074

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0075

第三南遣枝隊法令第八號（無線電信）
 一、左記ノ地點ニ名稱及符字ヲ特定シ當隊限リ使用

セシム

名稱	符字	地點
第一地點	地一	バラウ島南東側ゴロル泊地附近
第二地點	地二	アガウル島
第三地點	地三	ヤツプ島 ヤツプ沖

大正三年十月十日

第三南遣枝隊司令官 松村龍雄

0076

十月十日 日曜

天候 晴 氣温 最高 最低
八七 八三 晴雨計 九六
九八

風向 西 風力 四

一各艦ノ所在行動左ノ如シ

一薩摩ハ揚陸員ノ一部ヲ以テ「アラネット」引揚ヲ試ミニモ成功セス

ニ平戸ハ午前六時「アングウル」發訓令ニ基キ「モルツカ」海峡及「バンカ」海

方面ニ向フ

ニ矢矧ハ「アングウル」ニ在テ「幸壽丸」ヨリ載炭

ニ當隊限リ「パラウ島」「ゴロ」泊地ヲ第一地點「アングウル」島泊地ヲ第二地

點「ヤツノ島」「ヤツノ沖」ヲ第三地點ト略稱ス(十日)

ニ海軍大臣ヨリ左ノ電受領

十月十日附特別陸戰隊ヲ編制シ及其ノ定員ヲ定メラルル第一乃至第

五特別陸戰隊ノ所屬ハ第一南遣枝隊所管ハ横須賀鎮守府

0077

第六特別陸戰隊、所屬、第二南遣枝隊所管、佐世係鎮守府
ナリ……、定員、指揮官少佐大尉、内、指揮官附中少尉一
軍醫一、主計一、兵曹四、水兵三十二、内、掌信號兵二、船匠手木工、内三看
護手看護、内一、厨宰主厨、内一

四第(南遣枝隊本日トラック着彼南丸来着迄全地滞在、旨全隊
司令官ヨリ來電

五別紙第二南遣枝隊日令第四號(書類及無線電信)發布

0078

第二南遣枝隊日令第四號(無線電信)

大正三年十月十一日

於ヤツア島ヨリ旗艦薩摩 松村第二南遣枝隊司令官

一、薩摩ハ本職之ヲ率テ十三日午前ヤツア發テガウシヲ經テ

バウウニ回航シ上記ニケ所ノ守備隊ヲ保護ス

二、矢矧ハ十三日午前バウウ發テヤツア沖合ニ回航シ別命アル迄余所

ニアル守備隊ノ保護ニ任スヘシ

三、平戸ハ別ニ與フル訓令ニ依リ行動セシム

四、矢矧ヨリ出セルゴール守備兵ハ退テ薩摩ノ來員ヲ以テ交代セ

シメ鎌倉丸ニテ矢矧ニ送還ノ隊定ナリアガウシ守備兵ハ當分

矢矧ノモヲ以テス

五、幸壽丸ハ薩摩ニ給炭後直ニ内地ノ歸還セシムル隊定

(終)

0079